



なかねばし

板橋区立中根橋小学校
学校だより 2月号
令和8年1月30日

本・紙・鉛筆

校長 東 みどり

子供たちが授業の中でタブレットを使いこなす風景は、すっかり当たり前となっています。当初から子供の発達・成長にふさわしくないサイト等の接続制限はありましたが、1月からはすべての板橋区立学校で、ネットへの接続制限時間が加わりました。睡眠の大切さを伝えている本校では、夜9時から翌朝6時までを制限時間としました。

さて、1月7日に「最近、手書きしていますか?」をテーマにNHKで『クローズアップ現代』が放映されました。番組冒頭に「漢字が思い出せない」などのインタビューが映し出されました。今、パソコンやスマホの普及で、書く力の衰えを心配する人が増え、“手書き離れ”が学力や認知機能の低下につながりかねないということが紹介されていました。

番組では、教育のデジタル化をすすめてきたスウェーデンでは、PISAの学力調査では近年学力の低下が見られるようになったこと。そこで、3年前、政府は読み書きを学ぶために最良の環境は「本・紙・鉛筆」と方針を転換させたことを伝えていました。学校で手書きの時間を増やすことによって学力が向上し、読解力が高まったとの報告も番組は知らせていました。加えてアメリカでもタブレットを活用しつつも手で書く時間を大幅に増やす学校が出てきたことも話していました。デジタルツールを使うと言語を発達させる機会を失うとの指摘もあります。それは、プログラム自体が文章を整え、子供が考えなくなるからです。また、手書きが読解力を向上させるとの研究では、単語の綴りを考えて手を動かすことは、意味を体で覚えることにつながり、読む時は自動的に綴りを認識す



5年生 算数の少人数指導

るため、文章の理解もスムーズになるそうです。

さらに、「スマホに入力」、「タブレットにペンで入力」、「手帳に手書きする」との3つの比較研究において、脳の活動を分析すると、特に記憶の面ではデジタル機器よりも手帳の方が記憶に残りやすいそうです。手書きは紙や鉛筆を使うため思い出す手がかりが多いからです。タイピング入力で文字を書くことは格段に早くなりますが、手書きをすることで思考する時間が生まれるため、記憶しやすくなるそうです。さらに、番組のゲストは、「デジタル化はここ数年のことであり、手書きの歴史の方がはるかに長い。」、「手書きは脳に刺激を与え、五感に訴えることで思考力の向上につながる。」とコメントし、手書きの効果を述べていました。

本校では、週2回の朝読書の時間には、ページをめくる音だけしか聞こえない、分厚い本を持って登校してくる子供など、読書の日常化が定着しています。また、校内研究の先行学習の取り組みを通して、子供たちは教師が読み上げた言葉を黒板に書くのと同時にノートに記す「共書き」に取り組んでいます。「共書き」は、見て書く視写ではなく、聞いて書く聴写です。それによって集中力が高まり、また、時間の効率化も図れます。読むことや書くことは、思考を促し、より適切な判断につながります。タブレットの良さを生かすとともに、本・紙・鉛筆も大切にしたい指導に努めてまいります。